

学校教育目標 「郷土を愛し 心豊かで たくましく生きる子」

きぬがさ

東近江市立能登川西小学校

学校だより No. 4

令和元年(2018年)5月15日

作物を育てて食べるということ



5月9日(木)に1年生、5年生、たんぼぼ・ひまわり学級が田植えをしました。5年生が田植えをするのは、「作物を育てて食べるところまで」一貫して取り組み、食べ物や自然に感謝をするためです。家庭科調理実習の郷土料理(食育)では、モロコや地場野菜も食べます。



5月17日(金)には、この田んぼに、ニゴロブナの仔魚が放流されます。「魚のゆりかご事業」の取組です。昨年子どもたちはニゴロブナが何を食べて大きくなるのか知りませんでした。稲を食べると思っていた子もいたかもしれません。田んぼは、稲を育てるだけでなくプランクトンを育て、魚を育て、水生生物や昆虫やオタマジャクシやドジョウ、それを食べに来る水鳥などたくさんの生き物を育てます。もちろんこの田んぼで養魚となったニゴロブナは瓜生川から伊庭内湖に泳いでいき琵琶湖で育ちます。



ご協力いただいた耕作主の山田さんご夫妻、農業委員の大西さん、農地利用最適化推進委員の片山さん、JAグリーン近江能登川北ふれあい店さん、そしてこれからお世話になる伊庭自治会環境保全の会の皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

修学旅行に手作りガイドブックを作るということ

修学旅行の目的は、見学や体験をすることが第一となりますが、事前学習をいかにするかということによって価値が大きく変わります。能登川西小学校では、修学旅行の価値を高めるために手作りガイドブックづくりの取組をしています。この伝統を、今後の各教科の学習につなげたいと思います。



【分担して作った手作りガイドブック】

調べたことをわかりやすく伝えるために、難しい言葉は使わず、初めて聞いた人にも自分が説明できるようにとの気持ちで作りました。ガイドブックの全部を紹介できないのが残念ですが、全頁素晴らしいでございました。修学旅行先の奈良公園やキッザニアで、子どもたちが積極的に学びに向かう姿を楽しみにしています。

